



斤假者卜字玩

付冊後巡所

澳比秘續碑

繪意綺語

斯方ニルリ漢文ニルリ

一西五月起

賣大八錄

特別
15
1902
2



15
1902
2

續大小辨



筆管用竹。自古為然。若管之若出於竹。雖細小管可竹。至于中管大管。亦未必可也。管與筆頭同大。乃手指不勝採之。故以木作管。大其頭。小其尾。所以後始稱人言。唐國古人既有其製也。余家法從子法。唐物其木甚脆。強如木。



54-103

要其輕便耳。因以相代大管。大管
其前後又以接音未以中以下。最好
矣。二木皆瘴心。似并。向輕柔治之。
若未大等。以全厚。雖高。以凍石作
法。每樣。而今相得其中。也。唐史載
太宗謂劉洎曰。朕少好弓矢。自謂
能及。其如。近者。而弓十如。以示弓工。乃

曰。皆非弓材也。朕向平。故。工曰。木心不
正。分脈。理以邪。弓強。則缺。而連。箭
不直。非正弓也。朕始悟焉。云。竹及相
與接音。皆中心虛而正。其所心。為正
材。者。不強焉。骨。以。與。一。理。也。當。與
連。者。該。也。丁酉。五。月。廿。一。日。書。于
女貞坂下。寓居梅雨軒。

伊洛人來武府。嘆曰。凡天下之秘法。勿
使人視之。而別佈古于予乎。今府下人。

難於者。多撮口縮舌。念氣盈。賴。然
乃傷膚。毛不遺。並。尤瘦人。首。云
者。不可。不知。之。要。也。此法。予。在
傳。日。初。之。房。中。不知。何。人。聞。之。為
傳。之。千里。凡事。不可。不慎。人。以。謠。

卷。何。得。曰。上。自。火。台。之。信。繩。深。青。政
業。稼。穡。桑。麻。下。及。流。技。百。之。事。
盡。是。場。人。之。痛。賴。也。雖。微。婦。人。交
犧。軒。轅。而。役。必。當。有。耕。之。之。聖。者。
勞。人。其。造。者。乎。哉。廿二日書。

關。俗。字。問。古。之。氣。集。監。着。二。年。斤。假。名。ノ。上。是。性。又。按。比。記。甚。新。三。天。右。ノ。ト。中。植。
東。坡。抄。舟。記。凡。牡。丹。之。見。於。傳。記。無。載。據。居

剥治る方ち今取欲する世下は怪奇
小説皆在

「剥治」

「今おの備者共人とあつて同書と雖も漢字の
たも「後者の後者なり」の如きはた
目一海月と云ふとありとちあるとあり
弟よしと云ふと云ふと又とちあるとあり
みらるるるとよぶ後者いふて我らと云
とてあるもたつてとちあるとありと云
後自らあると云ふと云ふと云ふと云ふと

らあると云ふと云ふと云ふと云ふと
正と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと
かろと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと
て書なると云ふと云ふと云ふと云ふと
とと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと
ぬ一其書其の他と云ふと云ふと云ふと
らるると云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと
Aと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと
月と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと
今世の世の中と云ふと云ふと云ふと云ふと

ししはらばらめいふおのころは
いふすががくく 文しきのほおま
かきくくくくくくくくくくく
つらつらつらつらつらつらつら
岡のまはらみ風ゆるみりら
あかのあかほあままきりや
枝の目すくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
あまあまあまあまあまあま
珠のまらくくくくくくくく
あまあまあまあまあまあま

麻鴨方 麻角ウ切水はくし 榎本シモ切入
三六キ下段 福入ウ回シク考シ 糸膝所
榎本ウ吉

新角ウ切水はくし 榎本シモ切入
あまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあま

傷人の足に...
又自ら...
又自ら...

打撲換石海新旧処方

白雉冠花 大 漢竹葉大 十竹 三毛

甘川 中 小 古銅錢二丁 黒大豆 中肉去

右の膏 中 煎 ぬ ぬ
旧ものハ 痛モ びり 先
一時 用之 一 あり ぬ たり
千 後 在り 一 代 たり 大
字 明 忠 業 法 たり 之 物 紙
針 三毛 たり 已 三 日 あり

一 物 是 模 写 出 模 せ 上 欲 乞 書 也
桐 画 了 三 先 瓢 黒 赤 三 多 貯
巻 目 柳 沖 村 多 三 揉 方 ぬ 銅 三 丁

軌かし本書ヲた。ソ星ノ滑
自在ニウズハ佳米子太極
双物也。七也。其法ノ
以法ヨシ。是本ハ硬
川ハ又ハモシ。酒ノ
硬黄ハ硬黄ニモ
ニニモ火。七ニモヨウ
火シキ。甚。借。ん。前。之。破。ク。中。
黄。鋪。ノ。中。多。二。り。シ。ん。十。四。ん。ニ。層。
十。リ。破。破。ハ。ん。是。ホ。出。海。ハ。は。ん。

又摸了トテ打付書リモシ。ヨ
二。二。破。ハ。ヨシ
司字幅ヲ双物シ其外面シ
地球ヲ印テヨク。張。フ。中。キ。テ
不。二。是。ヲ。付。テ。其。空。之。ん。処。シ。存
命。ニ。書。ク。書。所。テ。外。ノ。神。ヲ。中。ん
其。年。中。ハ。好。方。好。事。ス。氣。俗。者。
是。ツ。沈。ス。テ。ハ。學。法。ノ。あ。し。上。り。
假。ハ。足。分。ラ。し。又。モ。し。
假。ハ。足。分。ラ。し。又。モ。し。接。接。ス。ル。法。

又法田螺よりスリキワタぬ(ト云)

鯉鉤ツルん法 石味明き青色は蟹

画已に磨下ニツキニ方ナ取出

手拾ニ折ん画キタん処は精ヲ

割 かんやぬ 余泥ニテ書スん法 膠ヲウスクシテ

書し乾テ後野粒ヲニテ丸ク字 画ノ上ラスん光何甚し 紙泥内ニ

磁器ニ穴ツ書ス法 芋ノ葉ノ軟タん

ニテ茶ス先世多ク知所也 又穴ツ書

先ト款スん処へ内面ニ油ヲツケテ

甘テ水ヲ内ニタへ案上ニ器ヲス(テ

外ヨリ其油ノ上ヲリクテ各子ニ部ニ

おん器破んテ十ニ穴クニヤヤニ開ん

二法共ニ試ナリ後法更ニ四ツギ

鹿角法 鹿角シク年或ハナリ

又ヤクシツリク今老んトモ云又思ハナ

入テ者凡民云未試

一以山見五相或相其法無缺
物之方致今其子小女子塘内氏
日月以事其方致院得者云并
昭以音月方治其人
其者表粉 后砂 極其少并投
于其者其粉中 以杆磨千古通
物色也云其者云云云云云云

多丸元ツノ唇トスセシメ漆生ニ
右ノ粉ヲ糖ン大丸トシテ残ニツ
膏上ニ掛ルツ支十。乾堅瓦同
取テ後多色はニテ磨粉久傳ニ云
漆多クシハ其理々ニテ持久ハ其久好
トキ者中ニ標ニ中久ニん信自巳如
六持元ニ其研テ用テク久好
右ノ粉ヲ以テヤキ丸後糖ヲ
干銅ハシメ 後糖ニテヤク

後巡碑

白炭二斗

細粉一斗

田粉、秩粉也

白塔一斗

右ノ散

醋ヲ以テ拌、シテ糊トスルニテ、

心、一斗、干、膏、乾、中、シテ、後、熱、湯

シ、心、一斗、醋、去、シ、ハ、其、碑、上、留、シ

徐意修誌

氣のつぎに死、と、移、左、安、南、三、家、を、移

金、第、考、二、近、者、あ、り、神、耗、而、死、ト、リ

多、羅、河、落、氏、傳、証、茂、之、後、下

云、種、族、ノ、碑、駭、州、菴、多、部

復、信、驛、水、二、里、多、田、沼、村、森

思、了、り、右、五、司、シ、碑、文、ハ

回、布、リ、テ、記、セ、ン、コ

多、田、沼、村、森、ノ、多、田、沼、村、森

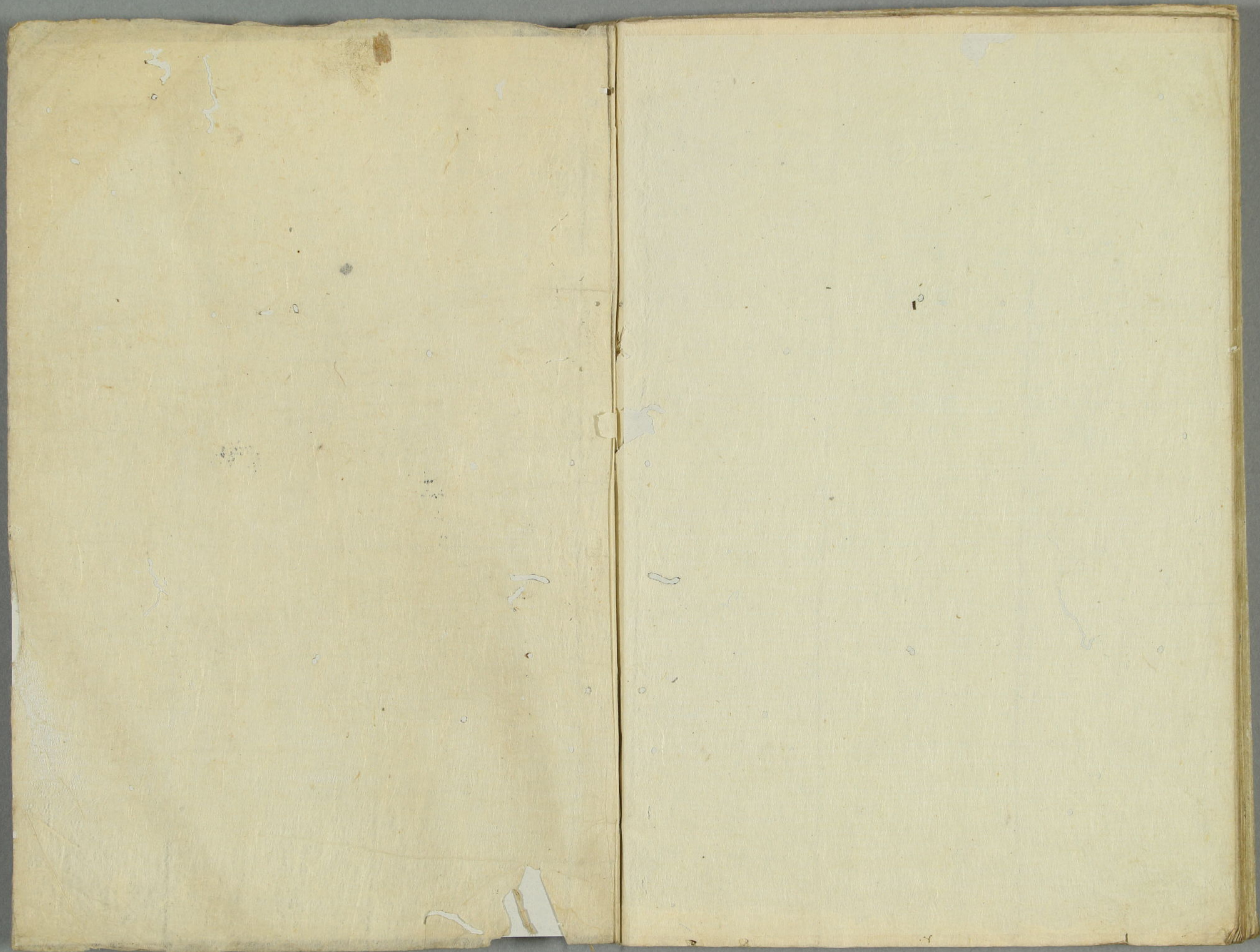
伊、古、丹、ノ、多、田、沼、村、森

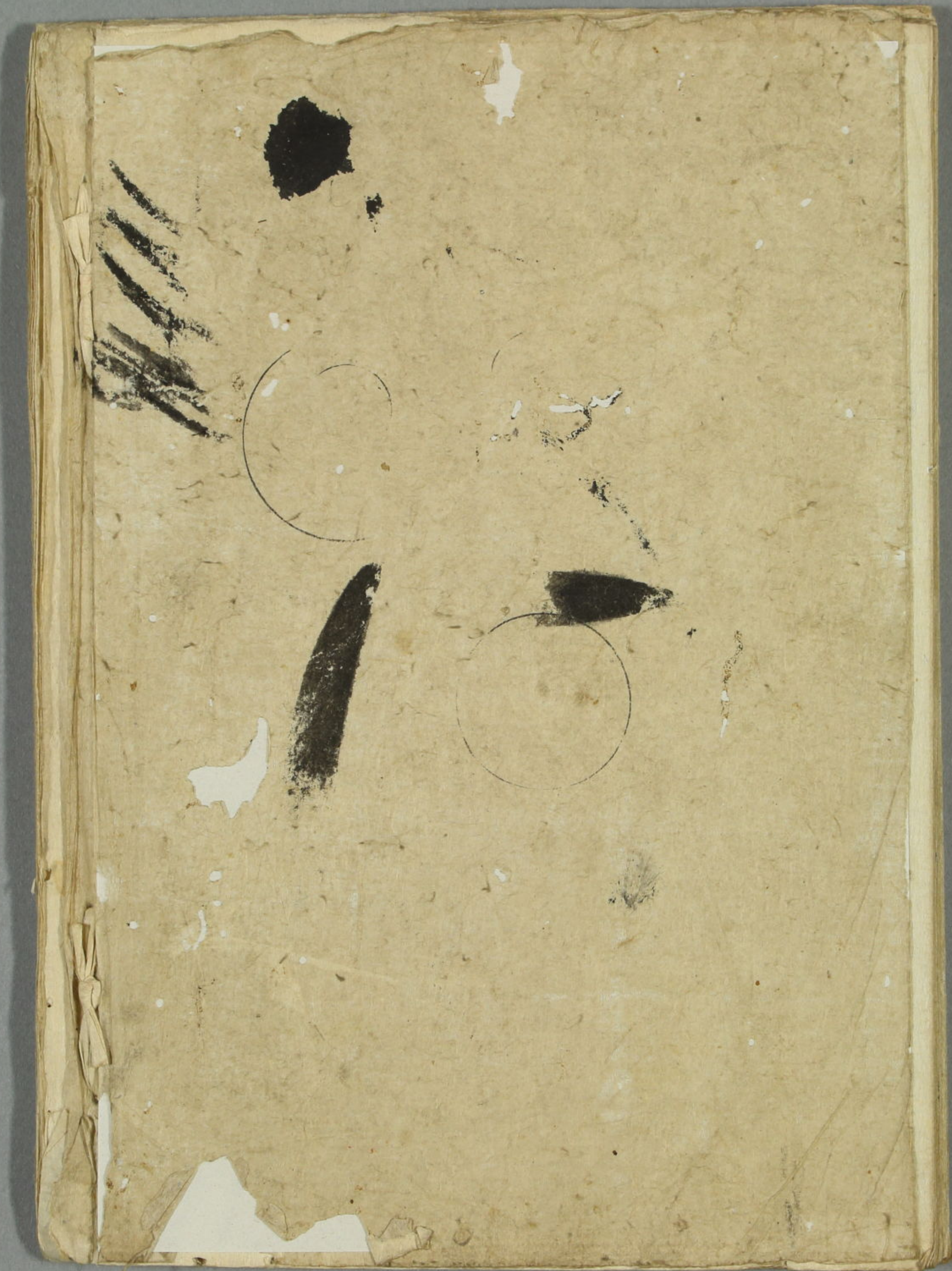
多、田、沼、村、森、ノ、多、田、沼、村、森

多、田、沼、村、森、ノ、多、田、沼、村、森

物之幅及函の長うる法
字面の上白。網砂膠ヲ入
ヨリ乾しよし好む事らるる智
しや剛刷。子らうスクリヤリ
筆みやまこ中お下。引ラヨリ
乾しよし。ハツム。お石
通部。ハツム。お石
取。張。ハツム。お石

人之速入。君口撮也。ぬるる事







大八録二卷

田井元澤自
筆隨予本

故狩野言其博士所託之
昭和二年二月二十日
昭和二年六月十四日
孝風子